

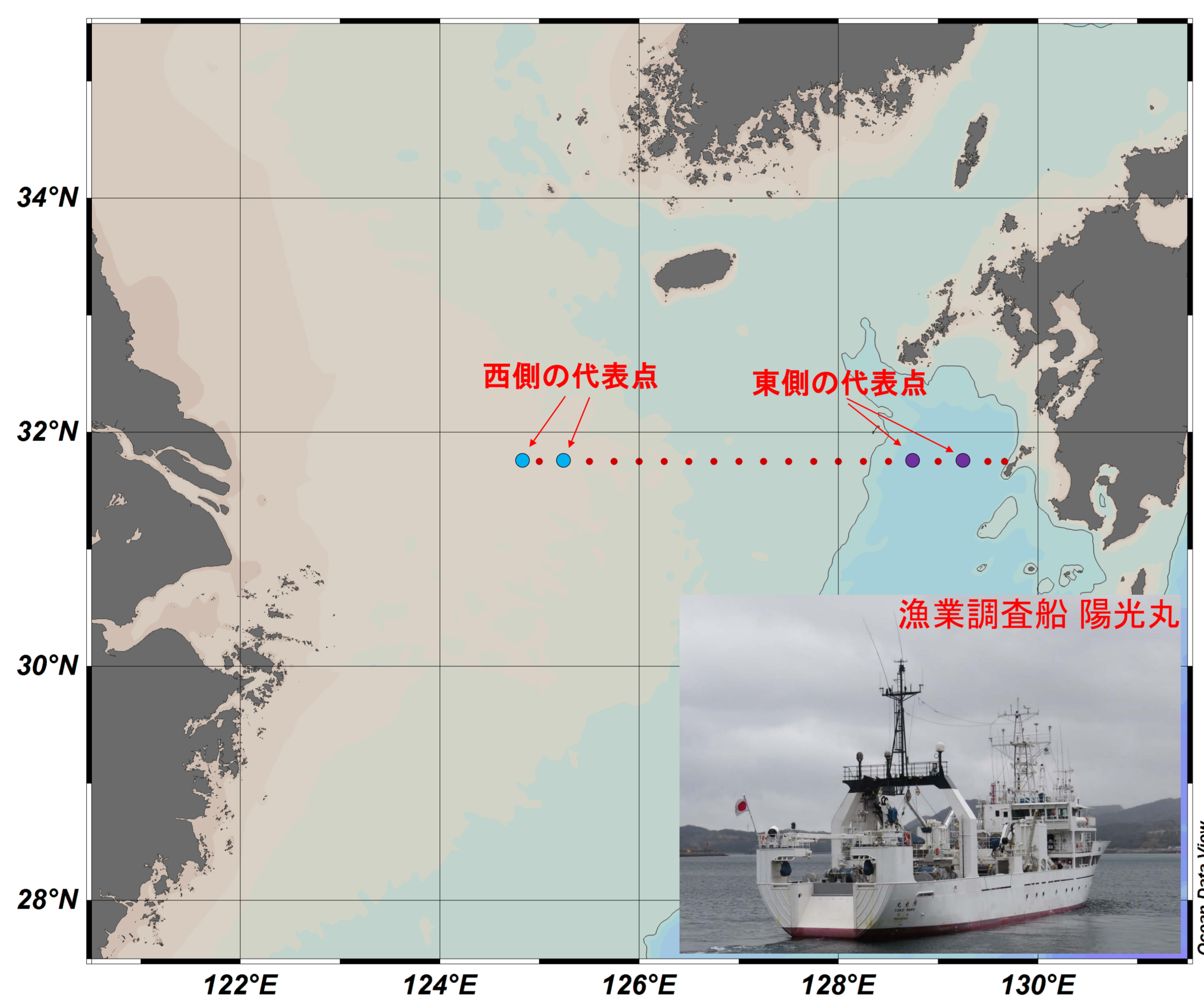
東シナ海で実施している海洋観測

水産機構 西海区水産研究所



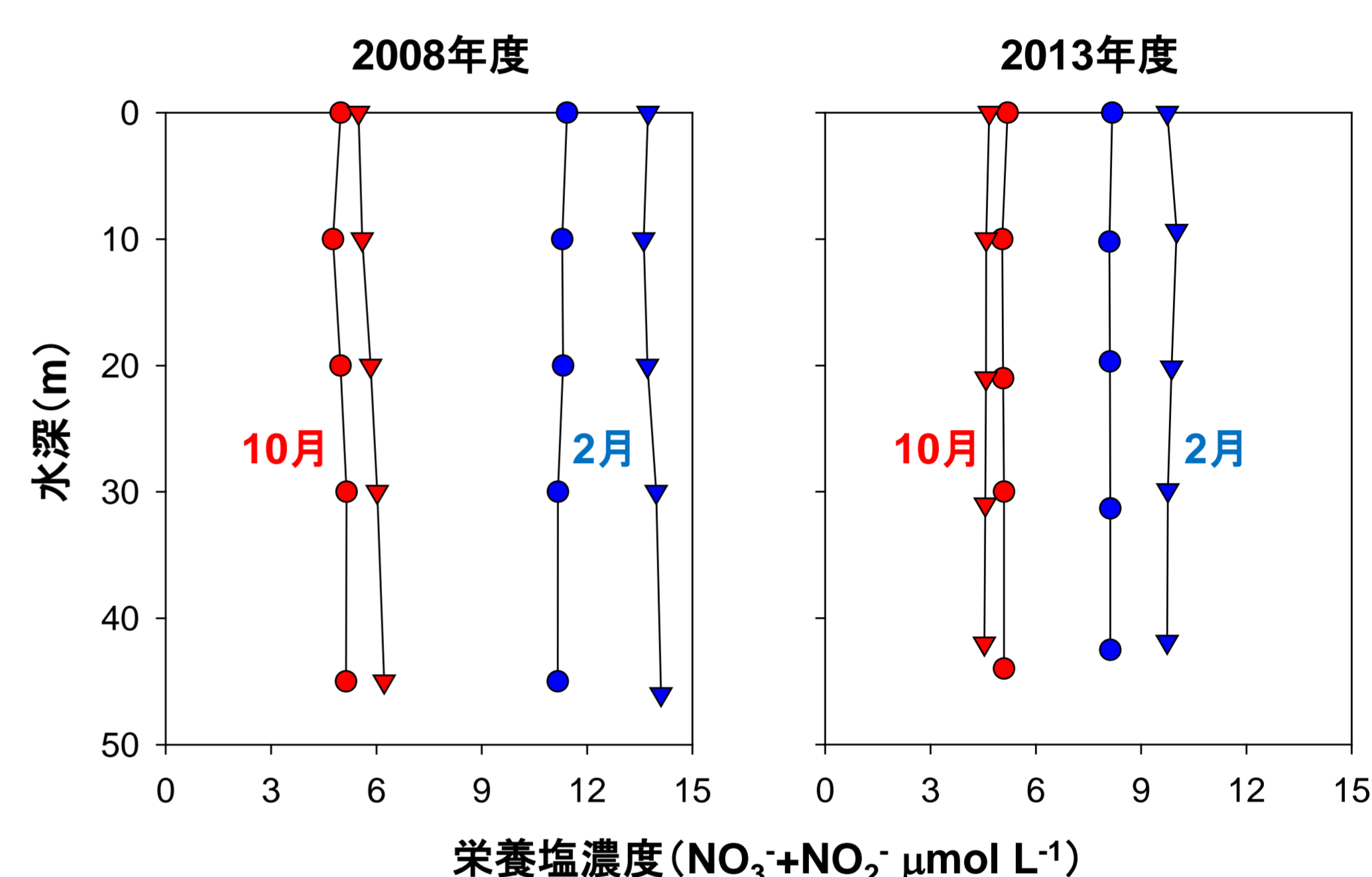
私たちは東シナ海で漁業調査船を利用した海洋観測を実施しています。東シナ海は一次生産の高い海域として知られていますが、一次生産を支える栄養塩の供給機構を調べたところ、西側の調査点では水塊の移動が、東側の調査点では表層水の冷却が重要な役割を果たすことが考えられました。

1 東シナ海での海洋観測



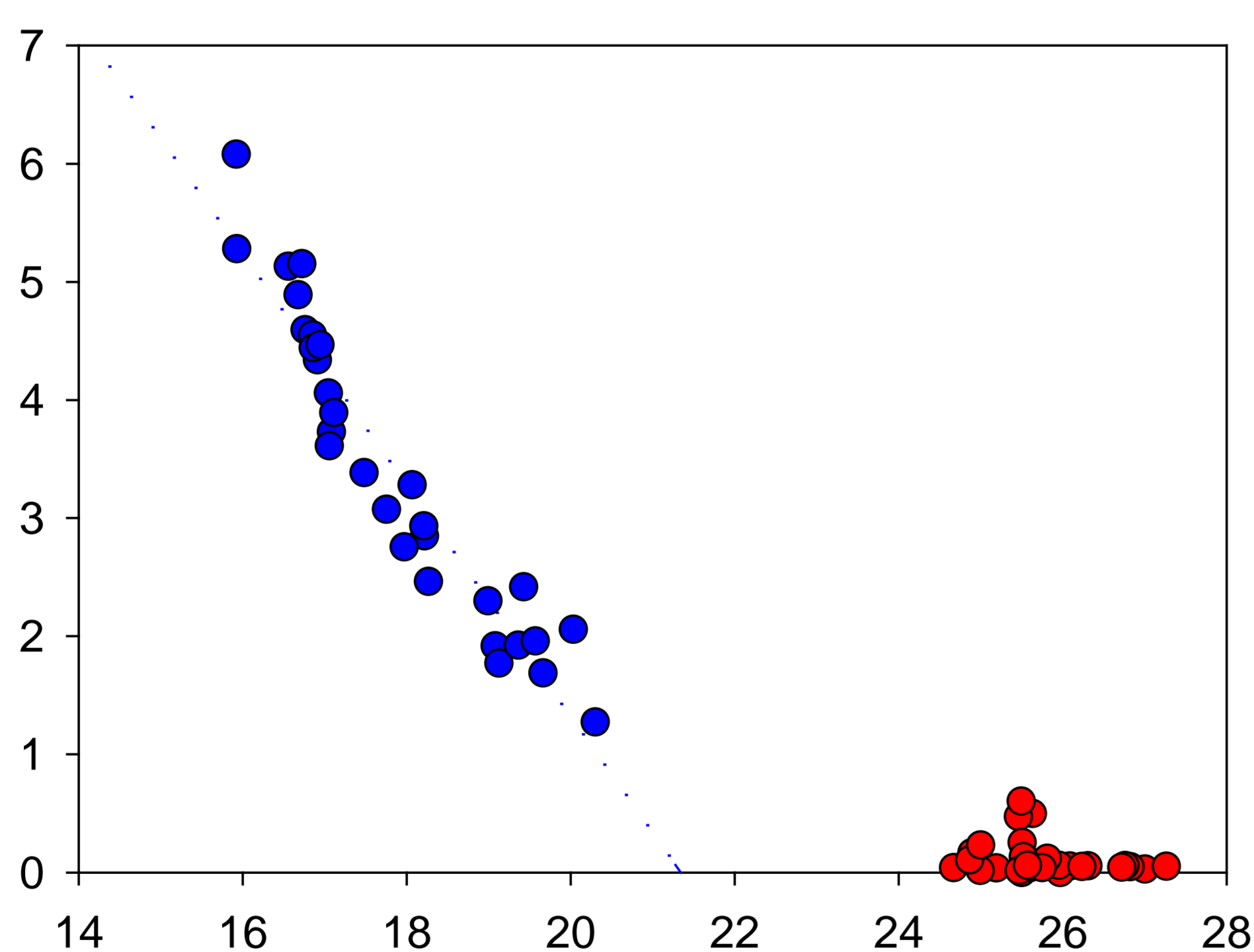
甌島の西方に21の観測点を配置しています。

2 西部での栄養塩の季節変化



10月と2月の栄養塩濃度を比較したところ全層で濃度が増加していることが観測されました。このため10月から2月にかけて、栄養塩濃度がより高い水塊が観測点に移動してきていることが示されました。

3 東部での水深10 mの水温と栄養塩の関係



10月から2月にかけて鉛直混合による表層への栄養塩の供給が認められました。2月の栄養塩濃度は水温と直線関係にあり、冬季の表層水温の上昇は表層に供給される栄養塩の量を低下させることが考えられました。

● 普及・社会実装への道筋

- 研究成果を科学的知見として論文等で公表し、政府や地方自治体の気候変動適応計画・農林水産政策を通して一般社会に普及・貢献していきます。